

## 「とある愚者達の饗宴」

イラスト: ぽん

初版コミックマーケット76

三冊目となる本作は魔術サイドのお話です。前二作が科学サイドだったことと、インデックスを表に出したかったから——のはずが、実はインデックスが活躍してないっていう。美琴や一方通行の方が出番ありましたね……。まあ、そういう事もあります。

本作のオリキヤラは何と四人。ヒルデグントIIフェーレンシルトに、仲間のCCCことクリステイアアヌ・カトリヌ・カザノヴァ、そして原石であるリヒト。そして、始末屋のカウボーイ、スパイク。

魔術はそれぞれ錬金術、タロット、魔弾の射手と三つも用意したんですが、はつきり言って欲張り過ぎました。ただでさえ科学サイドのメンバーも絡んできてたので、本来メインの魔術サイドがそんなに目立たなかったなと……。ページ数だけで言えば自分が作った同人誌で一番厚いんですが、それでも足りないという……。原作の原石の回収にも絡めたり、オリキヤラの設定もこれまた色々考えていたりしたのに、その辺を生かしきれなかったので、かなりもったいない事をしてしまいました。

発行した一〇冊中、一番書き直したいのがこの作品だったりします。

